



ファーマシスト・サイエンティスト への道しるべ

学長 乾 賢一

京都薬科大学に入学された新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご父母やご関係の皆様にも心からお祝い申し上げます。

2006年に始まった薬学教育6年制は、本年3月に第4期目の卒業生を社会に送り出しました。新しい教育を受けて誕生した薬剤師に対する社会の評価は、まだ時期尚早ではありますが、医療現場や製薬企業からは概ね良好といわれています。本学は130年の歴史と伝統の下で建学の精神「愛学躬行」を礎に、Science (科学)、Art (技術)、Humanity (人間性)のバランスのとれた薬学教育を実践し、研究能力を身につけた薬剤師「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を目指して、6年制薬学の特徴ある教育・研究を推進しています。2014年度に本学は薬学教育評価機構の第三者評価を受審しましたが、いくつかの改善すべき点を指摘されたものの、『明確な教育理念に基づき構築された教育プログラムと、それを実践するための優れた教員及び設備を有し、教

育・研究への熱心な姿勢と活動が認められる』と高い適合評価をいただきました。

近年の医療、薬剤師を取り巻く状況の変化に対応するために、2015年度から改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく新たな教育が各大学において始まります。そして、薬剤師として求められる基本的な10の資質（①薬剤師としての心構え、②患者・生活者本位の視点、③コミュニケーション能力、④チーム医療への参画、⑤基礎的な科学力、⑥薬物療法における実践的能力、⑦地域の保険・医療における実践的能力、⑧研究能力、⑨自己研鑽、⑩教育能力）が明示され、6年卒業時に必要とされています。また、5年次の薬学実務実習は、今後の薬剤師業務の進歩を想定して見直しがなされガイドラインも策定されています。加えて、本学では既に教養教育、語学教育の充実や初年次導入教育を拡充しています。また、6年制薬学の下で本学独自の活力ある研究活動を推進するために、分野（研究室）の

CONTENTS

■ 特集

南校地の整備工事が完成しました 4~7

■ ご挨拶

ファーマシスト・サイエンティストへの道しるべ
学長 乾 賢一 1~2
定年退職/新任のご挨拶 2~3

■ コラム

私の研究室紹介 その3 (最終回) 8~10
卒業生からのメッセージ 10
KPUこぼれ話 22
学生相談室だより 23
私の薦める、私の一冊 24

■ 報告

2015年度大学院冬季募集の入学選考結果 11
2015年度入学試験結果と総括 13
薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂 17
大学院トビックス 18~19
受賞 25~26
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 28

■ イベント

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
合同成果発表会 実施報告 14~15
自治会執行部主催 クリスマス企画 17
大学院英語プレゼンテーションセミナーについて 20~21
文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
5大学連携 海外合同教育シンポジウム 22

■ お知らせ

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!! 3
2015年度オープンキャンパス開催のお知らせ 7
2015年度前期学費の納入について 11
奨学金について 12~13
生涯教育プログラム「研究支援セミナー」開催のお知らせ 16
Library News 24
クラブだより 25
お知らせ 26~27
京薬会だより 27

垣根を越えた研究指導の奨励、優秀研究賞の制定、英語による6年次生の卒論発表会（ポスター発表）と、その発表会への海外学術交流協定を締結している大学の教員、学生の招待など、特徴ある教育・研究活動を展開しています。

ところで、「2025年問題」すなわち団塊の世代が後期高齢者となる2025年が医療、介護、社会保障などの面から大きな社会問題となっています。10年後に医療、製薬産業などがどのような情勢になっているか見通せないところもありますが、これらは日本再生のための重要な鍵として位置づけられています。これは取りも直さず、薬学・薬剤師の発展のチャンスでもあり、また責任も重大であります。今年入学された皆さんには、その時代を背負って立つ

ことが期待されています。そのため皆さんは本学で学ぶ6年間に、主体的に学び、考え、行動できる力量を身につけることが肝要であります。特に1年次、2年次での学びの姿勢が大切であります。そして、6年制薬学教育の広さと深さ、薬学という学問の厳しさと楽しさを、早い段階で気づいていただきたいと思います。同時に、クラブ活動などを通して、広い視野と豊かな人間性を育んでください。私は「開かれた学長室」をモットーとしています。是非一度、愛学館7階を訪ねて将来の夢を語ってください。

最後に、皆さんの学業成就、充実した大学生活、そして何よりも心身ともに健康であることを祈念して挨拶とさせていただきます。

定年退職のご挨拶



共同利用機器センター

講師 小川 俊次郎

私は、1973年本学学部卒で、修士、研究生と在学を続けた後、厚生省（現・厚生労働省）の試験研究機関に勤め、その折、衛生化学教室（現・公衆衛生学分野）との共同研究がご縁で、1983年に環境衛生学教室（後に衛生化学教室に合併）の助手（現・助教）として戻りました。以来32年、その間、所属が公衆衛生学教室に、1998年からは教育研究センター研究機器部門（現・共同利用機器センター）に、と変わり定年退職を迎えた次第です。

教室所属の頃は講義や研究を通し多くの学生さん

と接することが出来ましたが、センターでは業務柄接触の機会が限られ、大半の学生さんは私の顔（写真参照?）も名前もご存知無いと思います。とはいえ、本学で皆さんと同じ時間を共に過ごした貴重な縁は、私にとって忘れ難いものとなっています。

在学生、新入生の皆さんもどうか人と人との縁を大切にし、将来お互いに本学出身者であると懐かしく語り合える時が来ることを願って止みません。

最後に、今回、教員の定年退職者は講師のみ（学生実習支援センターの若槻 徹先生と私）でしたが、大学から定年退職記念会出席のお誘いを頂きました。誠に勝手ながら両名共一身上の都合で出席を辞退させて頂きましたが、皆様の御厚情誠に有難く頂戴致しましたことをお伝えしたいと思います。

では皆様と本学の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。永い間本当にありがとうございました。



事務局 施設課

課長 富永 重夫

2011年1月に縁があり施設課に採用されました。

その縁とは、2000年より某建設会社で京都薬科大学の建替えに従事し、学生会館、愛学館、臨床センター、躬行館の各新築工事、および関連の旧建物の解体を担当していました。

その経験を生かし、「授業のしやすい、研究のしやすい環境の提供」を、目標にやってみりましたが、4年間という短期間であり、先生・学生・関係者にたいへんご迷惑をお掛けしたことを、お詫び申し上げるとともに、今後の京都薬科大学がナンバーワンの薬科大学を目指して進化していくことを願い、退職の挨拶とさせていただきます。

大変ありがとうございました。

新任のご挨拶



病態薬科学系
臨床腫瘍学分野

すすむ

准教授 中田 晋

平成27年1月1日付で臨床腫瘍学分野の准教授に就任いたしました。私は、平成10年に京都府立医科大学を卒業し、京都第一赤十字病院で臨床経験を積みました。平成14年から京都府立医大大学院分子標的癌予防医学の酒井敏行教授に研究の手ほどきを受け、癌細胞に高効率にアポトーシス細胞死を誘導する手法の研究で医学博士号を取得、再び約1年半臨床に従事した後、ドイツのアレキサンダー・フォン・フ

ンボルト財団給付奨学生として、ハイデルベルクにあるドイツ癌研究センター(DKFZ)に留学し癌幹細胞研究に着手しました。帰国後、横浜市立大学医学部臓器再生医学教室で肝発生におけるエピジェネティクス研究に従事した後、前職愛知県がんセンター研究所主任研究員として消化器癌分子標的治療に関する研究および主テーマである脳腫瘍癌幹細胞研究を行ってきました。本学で勤務するあたり、これまでの癌臨床と基礎研究で培った経験と知識を十分に生かして、これからの時代に活躍する薬剤師、薬学研究者の育成に微力ながら貢献したいと考えております。京都薬科大学の諸先生ならびに同窓生の皆様には、御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

NEWS

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!!

教務課

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます(2014年度は48大学から516科目が提供されました)。つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間1科目2単位まで(通年

科目は1科目4単位まで)を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます。(2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます)。本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい。

■ 単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義は、「キャンパスプラザ京都」(京都駅前)にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる(ただし、科目によっては、参考書等テキスト代等が必要)。

などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

- 受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月8日(水)までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要等については大学コンソーシアム京都のホームページで確認して下さい。また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC> <https://el.consortium.or.jp/login.php> / <携帯> <https://el.consortium.or.jp/cns510.php>

※科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

南校地の整備工事が完成しました ～南校地の^{きのう}昨日・^{きょう}今日・^{あす}未来～

のっけから私事で恐縮ですが、1992（平成4）年4月に私が本学に着任して使わせていただくことになった研究室が、今はなき南校舎4階の北東に位置する1室でした。それ以来2011年1月に現在の育心館4階の部屋に移るまで19年近くをそこで過ごしました。そのような次第で、私にとって南校舎はとても懐かしい建物です。今でも臉を閉じれば、研究室からの眺め、南校舎の外観、内部の各階の様子、教室での授業の光景などなどを鮮やかに思いおこすことができます。

その南校舎も2011年10月から翌年にかけて解体され、跡地には2013年6月に竣工したバイオサイエンス研究センターが建っています。ついで昨年9月には厚生施設である南風館の開所式が挙行政され、年末には敷地全般の整備工事もめでたく完了しました。今回の特集記事では、3年余りにわたる南校地キャンパスの整備工事の完了を記念するとともに、南校地の変遷についてご紹介したいと思います。なお、バイオサイエンス研究センターの詳細については、本誌174号（2013年7月）をご参照ください。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.



2011年より南校舎の解体、バイオサイエンス研究センター新築、
2013年より南校地整備工事（下記参照）が2014年12月に完成しました。

【工事概要】

工事名称：京都薬科大学 南校地整備工事

該当工期：2013年6月～2014年12月

主要工事：(1) 部室棟（RC造 2階建 122㎡）

(2) 危険物・廃溶剤・古紙の各倉庫（RC造 平家建 47㎡）

(3) 警備員室（RC造 平家建 47㎡）

(4) 南風館（RC造 平家建 426㎡）

(5) 外構改修工事（南校地北側舗装・正門・北境界塀・植栽他改修工事）

※南風館にはセミナー室を2室、談話室、自習室、売店（Yストア）、抽出室、還元室の各諸室が施設整備された。

設計・監理：株式会社 東畑建築事務所

施工：株式会社 大林組



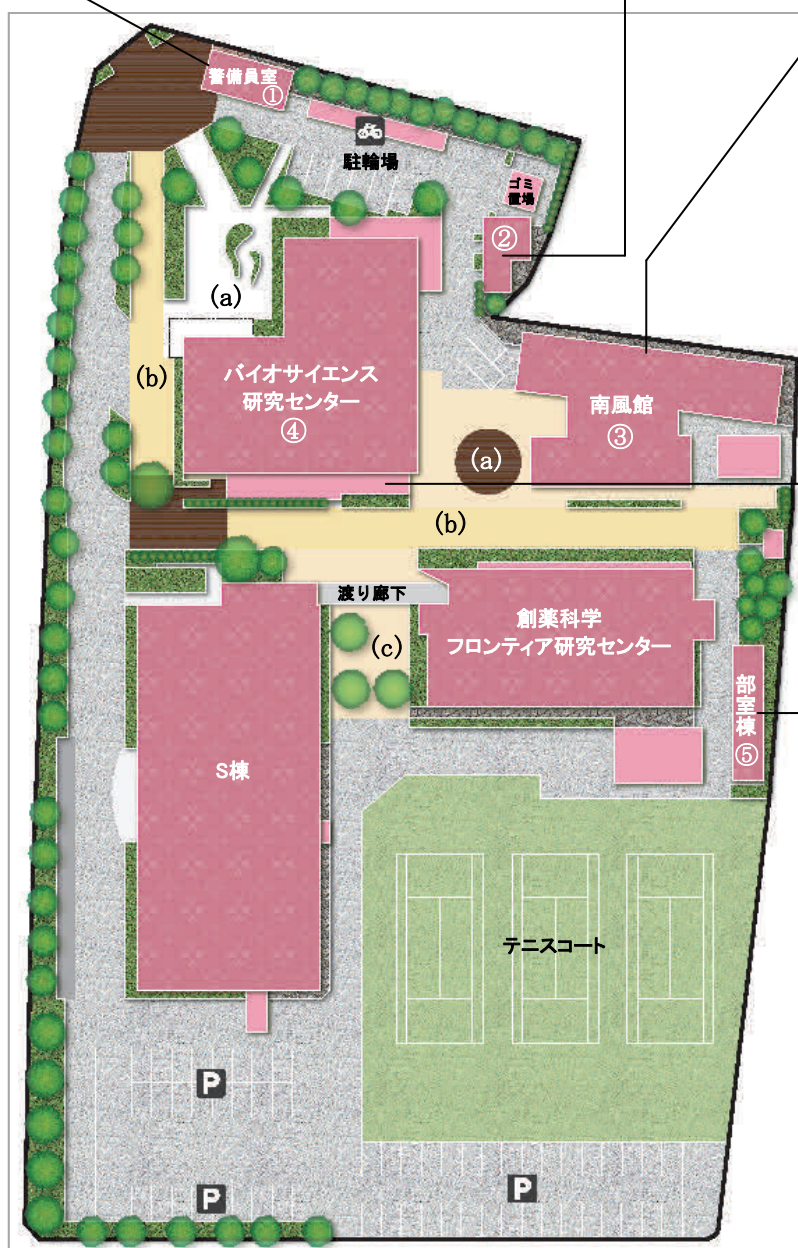
①警備員室棟



②危険物・廃溶剤庫



③南風館・テラス



④バイオサイエンス研究センター



⑤部室棟

■ 南校地整備工事の全体コンセプト

【動線の整理】

動線を整理し、キャンパスの構造を明快にしました。回遊式の車動線を確保し、かつ安全な歩行者動線をつくりました。メインの歩行者動線はキャンパスモールとして整備、キャンパス全体を結びつける新しい軸になります。

【機能的な施設配置】

個々の施設をその機能に応じて集約し、適切な場所に配置しました。

【草本類をベースとした柔らかな風景】

薬草を主要なルーツとする薬学の専門研究機関に相応しい草本類を中心とした庭。風そよぐみどりが見る人々に安らぎを与えます。

【滞留空間のネットワーク】

二つの主要な滞留スペース(a)をつくり、キャンパスモール(b)によって結びつきます。また、小さな滞留スペース(c)を動線上に配置します。屋外はラウンジとなり、学生・研究者たちの憩いの場を提供します。

■ 南校地の変遷について

かねがふち

現在の南校地の敷地には、かつて鐘淵紡績株式会社の社宅が建てられていました。本学が同社との間に、この社宅跡地約1万平方メートルの売買契約を結び一部手付け金を支払ったのが1971（昭和46）年12月13日のこと、翌1972年2月7日に残額を支払うとともに所有権の移転登記を完了させました（『京都薬科大学百年史』1985年）。

社宅跡地であった南校地の南方には東西に走る渋谷街道があります。これより南から五条通にいたる間には、現在では山科団地や山科消防署・山科中央公園がありますが、これらの地域は鐘淵紡績株式会社の工場の敷地でした。ちなみに、15世紀後半に蓮如が創建した浄土真宗本願寺派の山科本願寺は、五条通（国道一号線）・東海道新幹線をはさんだ宏大な地域に土塁や堀をめぐらせ、戦国時代にあって一種の要塞のような景観を有していたようですが、鐘紡の工場敷地は、その山科本願寺の寺域（寺内町）の北域に相当します。実際に山科中央公園の東北では、現在でもその土塁を見ることができます。

ところで、鐘紡がこの地にあった日本絹布株式会社を合併して山科絹布工場としたのは1922（大正11）年のことです。この工場は、1930（昭和5）年頃には、約千台の絹織機が動き、「これほど大規模の絹布工場は世界にも稀である」と記されるほどでした（時事新報社経済部編『新日本の工業地帯』経済知識社、1930年）。千数百名の女工が働き、近くには映画館などの娯楽施設もあったようです。戦時中には、他の多くの工場と同じく、軍需工場に転用されて戦後を迎えます。1970（昭和45）年、公害問題もあって滋賀県の長浜へ移転し、山科工場は閉鎖されたのです。



1970年頃の南校地一帯
南校地以南の鐘淵紡績株式会社敷地
（1974年度卒業アルバムから）

『百年史』によれば、本学が偶然の機会からこの跡地売却の話を知ったのは1971年9月のことでした。さっそく買収の可能性を打診したところ、鐘紡側も学術振興に寄与できるとのことで、本学の求めに応じてくれ

ました。おりしも本学では、「生物薬学科」の開設に向けて動きはじめていた時期でもあり、理事会・教授会とも買収交渉を始めることに異論は出ませんでした。買収金額をめぐって交渉がスムーズに進まなかったこともありましたが、最終的には前記のように年末に売買契約が実現しました。

1972年4月に南校舎の建築が始まり翌1973年1月に竣工しました。同月には、前年9月に文部省に提出した「生物薬学科」の新設と「製薬化学科」の定員増加の届け出が受理されました。3月3日、南校舎4階の第4講義室において盛大な竣工式が挙行政され、4月より主として1年次生の教育の場として利用されることになりました。この年の入学定員は、「薬学科」120名、「製薬化学科」80名、「生物薬学科」100名、合計300名でした。



竣工間もない南校舎
まだ外壁がコンクリート壁のまま
（1974年度卒業アルバムから）



解体前の南校舎



生命薬学研究所建設前の南校地一帯
（1984年度卒業アルバムから）



創薬科学フロンティア研究センター建設後の南校地一帯
(2009年度卒業アルバムから)

その後の南校地には、生命薬学研究所が置かれました(1987年7月着工、1988年7月竣工、1989年5月18日竣工開所式)が、2004(平成16)年度限りで廃止されることとなりました(現在のS棟)。また、6年制のもとの教育はすべて本校地で行うこととされ、南校地は基本的に研究拠点とする方向も定められました(『京都薬科大学創立120周年記念誌』2005年)。この間の1998(平成10)年7月には創薬科学フロンティア研究センターの建設が起工され、翌1999年6月5日に竣工式が挙行政されます。

以上のように、南校地の歴史は今年で43年目を迎えますが、本学の歴史とともにその景観と役割を大きく変化させてきました。バイオサイエンス研究センターや南風館の新設と敷地の整備事業の完成により、南校地は次の時代へと大きく歩み始めました。



南風館開所式のテープカット
(2014. 09. 12)

■ 南風館の名称について ■

学生に募集した結果、4年次生(当時)竹田真唯子^{まいこ}さん(写真左)が応募した「南風館」を採用。

「南風には黒南風(くろはえ)と白南風(しろはえ)があり、前者は入梅の頃に吹く南風、後者は梅雨明けの頃に吹く風をいいます。研究が上手くいかずもやもやとした日もいつか晴れ、南風が吹きぬけていく、そんな日々をイメージしました。」というメッセージが込められています。

(一般教育分野 教授 鈴木 栄樹)

News

2015年度オープンキャンパス開催のお知らせ

入試課

2015年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内下さいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。か、入試課にお問い合わせ下さい。

■ 2015年6月のオープンキャンパス

〈日時〉2015年6月7日(日) 10:00~13:00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■ 2015年8月のオープンキャンパス

〈日時〉2015年8月1日(土)・8月2日(日)

午前の部 09:00~12:00

午後の部 13:30~16:30

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・在学生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■ 2015年11月のオープンキャンパス

〈日時〉2015年11月1日(日) 京薬祭開催期間中

10:00~13:00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

入試課

T E L : 075-595-4678

F A X : 075-583-2232

E-mail: kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp

※学年は2015年3月時点のもので掲載しています。

病態薬科学系 病態生化学分野

5年次生 一同

病態生化学分野では、秋葉聡教授と石原慶一講師のご指導のもと、6年次生12名、5年次生14名、4年次生18名が所属し、研究に励んでいます。

主要研究テーマとしましては2つあり、非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の新規治療標的分子を探索する研究(例:アラキドン酸カスケード初発酵素のIV型ホスホリパーゼA2を想定)と、ダウン症モデルマウスを用いたダウン症での障害発症分子メカニズムを解明する研究で、これらの研究チームで活動します。各チームとも、さらに各自の研究テーマを選択し、先生方に質問をしながら学術論文を読むことで、知識やアイデアを得て研究に取り組んでいます。同じチームの仲間として、先輩・後輩の垣根を越えて研究について議論することもあります。

自分達の研究成果を定期的に発表するデータ検討会では、先生方から直接「喝(アドバイス)」をいただくことがあります。発表は英語で行われており、英語力の向上にもつながります。

研究チームに関係なく先輩・後輩とも仲が良く、研究室全体がなごやかな雰囲気楽しく研究を行っています。研究内容に興味のある人は是非一度見学に来て下さい。お待ちしております！



分析薬科学系 薬品物理化学分野

チョンヒョンキョン

5年次生 鄭 賢 卿

薬品物理化学分野(物化)は只今、共に成長したい意識の高い仲間を募集しています。皆さんが知らない物化の魅力について紹介したいと思います。物化の魅力は、①テーマが面白い、②学会で発表する機会が多い、③とことん研究できる環境が整っている点です。

①については、HPや掲示物を覗いてみて下さい。きっと興味をもってもらえるに違いない、と私は信じています。

②私自身、何度か学会に参加して発表しました。そこで、他大学の先生や学生に自分のテーマへの興味をもってもらえる喜びを味わうことができ、私が研究を行う原動力となっています。ただチャンスが与えられるだけでなく、優秀発表賞などしっかりと実績を残し

ているところも物化の特徴だと思います。これは日々の頑張りの結果であり、目標意識の高い仲間がたくさんいることが大きな要因ではないかと思います。まだ誰も行ったことのない新しい領域の研究を開拓するのは簡単ではありません。その分、苦しいこともあるかもしれません。しかし、私は今までの困難な経験も含めて、物化に入って良かったと思っています。なぜなら、成長した自分を実感しているからです。

③とことん実験できる環境である、これも物化の特徴だと思います。研究に夢中になってみたい人には最適な場所なのです。

留学生も加わり、雰囲気変わった物化のこと、気になりませんか。素敵な後輩との出逢いを、楽しみに待っています。

薬学教育系 臨床薬学教育研究センター

5年次生 金丸 達哉

「臨床薬学教育研究センター」、長くて覚えるのに少し苦勞しそうな名ですが、研究室について紹介します。「臨床」という名のとおり常に臨床現場を意識し、臨床では何が問題となっていて、どうすればその問題点を解決できるかについて先生方からアドバイスをいただきながら、個々にテーマに取り組んでいます。具体的には、1) 臨床薬物治療および医薬品開発における医薬品評価に関する研究、2) がん化学療法と疼痛緩和における薬学的支援に関する研究、3) がん化学療法の効果と安全性を考慮した統合的薬剤評価、4) 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報の評価に関する研究、という柱のもとで、文献や

各種データベースから得られる情報の整理と解析に取り組みます。さらに病院や薬局との共同研究で実際の患者さんのデータを使用した研究も行っています。私の場合は、病院からいただいた薬物血中濃度データなどの解析を行い薬物治療に役立つ情報提供を目指した研究を行っています。当センターの特徴としては、実務経験のある先生方などいろいろな専門領域の先生方からさまざまな角度からの意見が聞けることや、先生方同士が強力タッグを組んで研究を後押しして下さることが挙げられます。本校地内の独立したきれいで快適な建物内にある研究室内はいつも穏やかでマイペースな雰囲気となっています。「百聞は一見にしかず」、興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

生命薬科学系 衛生化学分野

ほそだ あやみ
5年次生 細田 綾美

本研究室の衛生化学という名前は「生命を衛（まも）る化学」を意味しており、中枢神経系及び感覚神経系に関する研究を中心として取り組んでいます。実験は基本的に1人で行う人もいればグループで行う人もいますが、先生方は学年に関わらず学生の意見をしっかりと聞いてくださるため、実験の進め方や結果の考察について積極的にディスカッションすることができます。また、得られた成果を報告する中間報告会や自分の研究テーマに沿った英語の文献を紹介するセミナーなどもあり、本研究室では3年次の配属時からこれらを経験できるため、データのまとめ方やプレゼンテーションについてしっかりと身につけることができます。

私は研究室を選ぶ際、限られた学生生活を有意義なものにしたいと思い、この研究室を選びました。実際に始めてみると、研究は楽しいことばかりではなく、データを出すまでたくさんの苦労を経験したり、データをまとめて人に伝える難しさを痛感したりすることもあります。しかし、一生懸命取り組んでいるからこそデータが出た時の喜びは非常に大きく、本研究室ではそれを共に喜んでくれる先生方や仲間がいます。お互いに助け合ったり相談しあったりする機会が多いため先輩後輩関係なく仲が良く、研究活動以外でも新入生歓迎会や忘年会、研究室旅行など楽しむときは思いっきり楽しんでいます。研究室生活を実りあるものにしたい方、共に衛生化学分野で頑張りませんか。

創薬科学系 薬品化学分野

5年次生 川崎 友紀

薬品化学分野では、医薬品の創製を目指して疾患特有のタンパク質をターゲットとしたペプチド化合物や低分子化合物の合成、活性評価をしています。創薬の一連の流れ（化合物の構造設計、それに基づいた合成、生成した化合物のアッセイ）を学ぶことができるのが大きな特徴で、研究室には主にSARS（重症急性呼吸器症候群）、アルツハイマー病、成人T細胞白血病、がんを研究対象とするグループがあります。

有機は苦手だという方がいるかもしれませんが、実際に自分で実験してみると教科書のソロモンを読むよりずっと簡単で楽しいです。温度や試薬の量、立体化学など少しの違いで予想外の結果が得られることもあり、とても興味深く面白いです。また、実験がうまくいかず、何が違うのだろう？と悩みぬいた末に、やっ

と成功した時には大きな達成感を味わうことができます。さらに、私たちの研究室では学年を問わず積極的に学会発表を行っています。発表の準備は大変ですが、きっと自分自身の成長を実感することができ、自信につながると思います。

学生は1人1化合物を担当しており、自分でスケジュールを立て、日々の実験を進めています。やる気のある人はとことん頑張ることができるし、部活やアルバイトなどと両立させたい人は自分のペースで実験することができます。

研究室の雰囲気は、みんな仲が良く、空き時間にはお茶室に集まりお菓子を食べたり喋ったりしてにぎやかに過ごしています。また、何でも相談に乗ってくれる優しい先生や先輩方ばかりなので、充実した研究室生活を送ることができると思います。

ぜひ一度、見学に来てください！

病態薬科学系 臨床薬理学分野

4年次生 三野 由香利

私の所属する臨床薬理学分野は6つのチームに分かれ、それぞれが高血圧・虚血性心疾患・高尿酸血症などの生活習慣病やメタボリックシンドロームに起因する脳・心・腎・血管病についてin vitro実験、in vivo実験を行いEco Pharmaの研究をしています。Eco Pharmaとは既承認医薬品から目的とする新規作用を見出す創薬システムです。すでに承認されている医薬品のため安全性が確保されているうえに新薬を開発するよりも経済的・時間的に効率の良い研究です。実験のほかには論文を読んで発表する抄読会を行ったり、学会に参加することでさまざまな経験をすることができます。

我が研究室のモットーは「陽気に元気に生き生きと」です。日頃は研究・勉強に励みチームで協力しながら研究を進めています。一方、研究室旅行・文

化祭など行事のときは思いっきり遊びます。なので、研究室全体の雰囲気が良いだけでなくメリハリのある充実した生活を送ることができます。私は最初、循環器系の研究がしたくてこの研究室に見学に行ったのですが、このような研究室の楽しそうな雰囲気も決め手のひとつとなりました。

まずは自分のやりたいことを第一に考えて研究室を選ぶのがよいと思います。もし少しでも臨床薬理学分野の研究内容に興味があれば、ぜひ一度研究室に見学に来てください。



私が所属する薬物治療学分野では、加藤伸一教授のご指導の下、天ヶ瀬紀久子講師、松本健次郎助教、大学院生1人、研究生1人、6年次生21人、5年次生19人、4年次生15人、3年次生25人で日々研究に取り組んでいます。本分野では消化器疾患を対象に、病態の解明と予防および治療法に関する研究を行っており、主な研究内容としましては、

- 1) NOX-1ノックアウトマウスやTRPチャンネルノックアウトマウスを用いた炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）の病態解明
- 2) 機能性消化管障害 (FGID) の病態解明
- 3) 薬剤 (NSAID、抗がん剤、ビスホスホネート系

薬剤など) 起因性消化管傷害の病態解明

- 4) 漢方方剤や乳酸菌製剤を用いた消化管疾患治療に関する研究

5) ヘリコバクター・ピロリ関連胃病変の病態解明などです。動物を使う実験が多くなりますが、細胞を用いて薬の作用機序を明らかにする実験も同時に進めています。良い意味で、学年ごとの垣根はなく、実験する時は集中して実験に取り組み、騒ぐ時は大いに騒ぎます。研究室全体としても、新歓、ソフトボール大会、フットサル大会、忘年会、卒コン等と多くのイベントがありますので、先輩や先生たちとも仲良く過ごしています。

研究室選びの際には、ぜひ一度研究室に見学に来て、この雰囲気を感じてください。

卒業生からのメッセージ

もっと議論をしよう

田中 徹



- 2007年 学部卒業
(機能分子化学教室)
- 2009年 京都大学大学院
薬学研究科修士課程卒業
- 2009年 日本新薬(株)
創薬研究所 入社
- 2013年 京都薬科大学大学院
薬学研究科薬科学専攻
博士後期課程入学
(薬品製造学分野)

私は高校生の頃から研究職に就きたいと思っていました。大学4年生ではより多くの研究室を経験することで異なる角度から物事が見えるのではないかと、他大学大学院へ進学しました。その後、就職しましたが社会において博士学位の必要性を痛感し、現在本学大学院において社会人学生として仕事と両立させながら博士号取得を目指しています。

他大学大学院時代に感じたことは雰囲気の違いでした。当たり前のことですが、学部生、修士、博士課程の学生、教員が学術的欲求を満たすための努力を惜しまず、新しい知見に対して常にお互いの考えをぶつけ合っていました。当時の私は与えられたテーマに対して計画し、教員に実験結果を報告し、そして次の実験を計画するという思考でした。少しでもよい結果を出すことが、学生の仕事だと思っており、ディスカッションより実験時間を優先していました。しかし、その考え方が間違っていたと気づいたのは後になってからでした。

私は自分の未熟なところを認めることを避けていました。例えば、同学年の院生に対して自分の研究計画を説明する時に、情報の整理不足で説明ができなかったり、実験結果に対する自分の観察力が足りず気まずい空気にしてしまいました。過去の研究経緯からアドバイスをくれた時にその経緯を十分理解していないことが相手に伝わることを、すなわち、自分の知識不足を知られることを恐れていました。しかし、素直に理解していないことを認めて、必要な知識を習得するように努め、どのような点に注意して実験を進めるかのアドバイスを率直に聞いていれば、より早く成長できていたと思います。

ディスカッションに時間を使うメリットは他にもあります。一人の知識量より二人、三人と増えれば増えるほど実験の選択肢は多くなります。多様な選択肢から最適な方法を選択するためにお互いの考えを述べ合い、意見を戦わせることが重要です。新しい情報による刺激によって良いアイデアが出る可能性も高まります。

また、議論することによって論理的思考能力やプレゼンテーション能力が高まります。自説を論理的にわかりやすく説明できないと相手に納得してもらえません。その延長が、セミナーや研究発表会に繋がります。

企業においては、チームで仕事をするので日常的に議論しています。大学では専門的スキルの習得に関心がいきがちですが、スキルよりも基礎になる土台を構築することが重要です。そのために、もっと議論しましょう。そして、議論ができる環境を整備することがさらに大切だと思います。

4月上旬、新入生以外の学生の保証人様あてに学費等の納付書を送付いたします。納入期限は以下のとおりですので、遅れないように学費等を納めて下さい。

学費等の納入期限：前期分 4月30日

- やむを得ない事情でこの期日までに納付できない場合、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、速やかに学費延納願を提出して下さい(学費延納願の手続きは学生課で行っています)。
- 期日までに納入しない時は、講義・実習等の出席及び証明書の発行が停止され、正規試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となるため、十分注意して下さい。

<納入手続きのお願い>

金融機関で納入のお手続きをされる場合、本学から発送しました**納付書**をご利用下さいますようお願いいたします。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は納入確認が困難な事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意くださいようお願いいたします。

- ①振込人は本学納付書の太枠のお振込人欄に印字された**整理番号、学生氏名、金額**を必ず正しく入力して下さい。

【注意】

保証人名義や家族名義、その他の名義の預金口座から振り込まれることがあり、すぐに納入確認ができない事例が発生しています。

- ②**振込先の金融機関の預金口座**を確認し正しく入力して下さい。

2011年度以前に入学した学生には毎年、前期に学生自治会費※の納付書も同封していますが、自治会費は大学が代行して請求、収納業務を行っています。

そのため、学費と自治会費は金融機関が**全く別の預金口座**で管理しています。

学費と自治会費を合わせた金額が振り込まれたり、学費と自治会費の預金口座を間違えて振り込まれている事例が多くありますので、気を付けて下さい。

(※2012年度以降に入学した学生の自治会費は入学手続き時に納入済です。)

2015年度大学院冬季募集の入学選考結果

Report

入試課

2015年度薬学専攻博士課程(冬季募集)および薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の入学選考を1月30日(金)に実施し、同日に合格発表を行いました。博士課程(冬季募集)の志願者は2名で合格者は2名でした。博士後期課程(冬季募集)の志願者は4名で合格者は4名でした。

■ 2015年度薬学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2015年度合計
志願者数	2名	11名
受験者数	2名	11名
合格者数	2名	11名

■ 2015年度薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2015年度合計
志願者数	4名	4名
受験者数	4名	4名
合格者数	4名	4名

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。

募集については、随時奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■ 日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（留年中は停止）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 （無利子貸与）	自宅月額	30,000円、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	30,000円、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 （有利子貸与）	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

【奨学金の選考基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安			
			給与所得世帯		給与所得以外の世帯	
第一種奨学金 （無利子貸与）	4月	高校	通学形態		通学形態	
		評定平均値	自宅	854万円	自宅	422万円
		3.5以上	自宅外	897万円	自宅外	465万円
第二種奨学金 （有利子貸与）	4月	特に定めない	通学形態		通学形態	
			自宅	1,170万円	自宅	738万円
			自宅外	1,213万円	自宅外	781万円

- 注）1. 年収・所得の上限額は、4人世帯の場合の父母の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。
2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。
3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。
4. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■ 京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返済の必要がない奨学金です。貸与型奨学金の募集については、掲示板でお知らせします。

名称	金額（年額）	採用予定数（2015年度）	備考
京都薬科大学 給付型奨学金	新入生：半期授業料の1/2 在学生：5万円～20万円	新入生約10名 在学生各学年約20名	入試成績又は前年次成績の 優秀者を大学が選考
京都薬科大学 授業料減免型奨学金	半期授業料の減免	約20名	在学中4回まで ※1 随時
京都薬科大学 貸与型奨学金	年額授業料の1/2以内	約10名	無利子 原則在学中1回 毎年9月募集
京都薬科大学 遠隔地出身学生 給付型奨学金	年額60万円 （月額5万円）	約10名 ※2	最長で4年間受給可能 自宅が近畿2府4県以外にあり、 下宿生活をしている学生 毎年4月募集

※ 1. 家計急変者（家計支持者の死亡、失業、廃業等）に限る

※ 2. 2015年度入学者より適用

■ その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集のつど掲示板でお知らせしますので確認して下さい。本学に募集依頼がきていなくても多くの地方自治体が奨学金制度を設けていますので、希望者は出身地の教育委員会に直接問い合わせして下さい。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】（2014年度実績）

奨学団体名	種別	月額	出願資格
石川県教育委員会	貸与	44,000円	保護者が石川県内に現に引き続き3年以上居住している人
宮崎県教育委員会	貸与	53,000円	生計を主として維持する方が宮崎県内に居住している人
山口県奨学会	貸与	52,000円	保護者が山口県内に生活の本拠を有する人
朝鮮奨学会	給付	25,000円	国籍が韓国もしくは朝鮮の学生
あしなが育英会	貸与	40,000円	保護者が病気、災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている人

2015年度入学試験結果と総括

Report

入試課

2015年度の学部入学試験が終了しました。志願者数および合格者数は下表の通りです。

2015年度入学試験の志願者数は前年比431名（13.8%）減少し、2,687名となりました。志願者減少の背景には文系人気の回復および新学習指導要領移行に伴う既卒生減少の影響があったと考えています。近年顕著であった「文低理高」に変化が見られ、社会科学系などの文系学部の人気が回復し、理系学部の人気頭打ちが見られました。理系学部の中でも薬学、理学の志願者減が顕著であり、本学もその影響を大きく受けたと考えられます。また、新学習指導要領への移行に伴う既卒生の減少も大きな減少要因となりました。本学は一般入学試験志願者の4割強を既卒生が占めており、この影響を特に強く受けたと考えられます。

入試広報活動は、オープンキャンパス、大学説明会（愛知、広島、香川、福岡）、進学説明会・相談

会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問、学生の母校訪問等の活動により積極的に志願者確保に努めました。2016年度入学試験においても広報活動を通じて本学が育成する「ファーマシスト・サイエンティスト」の魅力を訴え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご親戚や高校の後輩等で大学受験を控えた方がいらっしゃいましたら、是非本学の受験をお勧めくださいますようお願いいたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	52名	52名
一般公募制推薦	80名	351名	83名
一般入学試験A方式	45名	921名	365名
一般入学試験B方式	180名	1,333名	432名
一般入学試験C方式	5名	30名	16名

（合格者数は3月13日現在）

研究代表者 安井 裕之・小暮 健太郎

「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」
 「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成」
合同成果発表会



乾 賢一
開会の辞

日 時：平成26年11月29日（土）13:30～17:30
 場 所：京都薬科大学 愛学ホール（講演会場）
 および躬行館食堂（ポスター会場）
 参加者数：128名（職員43名、学部生・大学院生83名、企業関係者2名）

■ プログラム

＜開会の挨拶＞

乾 賢一（京都薬科大学長）



天ヶ瀬 紀久子
(メタロミクス)

＜バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた
 疾患治療ファルマコメタロミクスの確立＞

「プロジェクトの概要について」

安井 裕之（代謝分析学分野・教授、代表）

「ビスホスホネート系薬剤による消化管傷害における

生体内微量金属とのキレート形成との関連」

天ヶ瀬 紀久子（薬物治療学分野・講師）

「低浸透圧処理アストロサイトから放出された亜鉛は

ミクログリアを活性化するグリオトランスミッターである」

瀬川 将平（衛生化学分野・大学院博士課程）

「リチウムの体内動態と消化管吸収」

坂根 稔康（薬剤学分野・准教授）

「シスプラチン投与患者における血清中バイオメタル濃度の変動解析」

中村 任（姫路獨協大学薬学部・教授）



坂根 稔康
(メタロミクス)

＜私学助成により導入された大型機器の紹介と現状の報告＞

小暮 健太郎（薬品物理化学分野・教授）

＜生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による
 環境応答型インテリジェントナノDDSの創成＞

「プロジェクトの概要について」

小暮 健太郎（薬品物理化学分野・教授、代表）

「効率的な腫瘍への送達とがん細胞特異的な薬物放出が可能な

腫瘍微小環境応答性ナノ粒子の開発」

濱 進（薬品物理化学分野・講師）

「活性酸素消去能に優れた白金ナノ粒子の

肝臓ターゲティングによる肝虚血・再灌流障害の抑制」

草森 浩輔（薬剤学分野・助教）

「Oxaliplatin誘発性味覚障害発症メカニズムの解析

～甘味感受性及びその味受容体発現への影響～」

西田 健太郎（衛生化学分野・助教）



小暮 健太郎
(ナノDDS代表)



草森 浩輔
(ナノDDS)



安井 裕之
(メタロミクス代表)



瀬川 将平 君
(メタロミクス)



中村 任 教授
(メタロミクス)



濱 進
(ナノDDS)



西田 健太郎
(ナノDDS)

＜「バイオメタル」および「ナノDDS」のポスター発表および交流会＞

「バイオメタル」から12演題、「ナノDDS」から14演題のポスター発表



全参画分野によるポスター発表も行われ、質疑応答が行われました。

＜閉会の挨拶＞

後藤 直正（京都薬科大副学長）



後藤副学長による閉会の辞

=====
2014年11月29日（土）に愛学ホールおよび躬行館食堂にて2014年度の成果発表会を開催しました。今回は、本学の2つの文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業である「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミックスの確立（代表：安井裕之）」（以下「バイオメタル」）と「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成（代表：小暮健太郎）」（以下「ナノDDS」）の合同発表会といたしました。発表会では、学内で本プロジェクトに参画する全ての教員が会し、各々のプロジェクトにおける研究成果が、口頭（7演題）およびポスター（26演題）により発表されました。また、学外研究者としてご参画いただいている姫路獨協大学の中村 任先生、徳島大学の清水太郎先生、名古屋市立大学の竹内堂朗先生、高 琦琦先生らも口頭およびポスター発表をされました。加えて、21世紀以降で文部科学省の私学助成事業により本学へ導入していただいた大型機器の紹介も行われました。

発表会当日は、128名の方々（職員：43名、学部生・大学院生：83名、企業関係者：2名）の参加のもと、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。大勢の学部生・大学院生も参加していただき、特に13名の学部生が自らポスターで発表されたことから、本学の研究面におけるアクティビティーの高さを十分に感じてもらえたのではないかと思います。

文部科学省から供されている本プロジェクトのミッションは、「研究拠点の形成」と「若手研究者の育成」であります。本成果発表会を1つの契機として学内・学外共同研究が活性化されるとともに、次代を担う若手研究者の育成に繋がることを期待しています。今後も、定期的にプロジェクトによる成果発表会を開催していくことで、本学におけるリサーチマインドの醸成と研究アクティビティーを維持できるように尽力していきたいと考えています。



活発な討議が行われました。

研究支援セミナーは、学会発表や論文作成などに役立つ
薬剤師のためのセミナーです。皆様のご参加をお待ちしています。

2015年度 研究支援セミナー1 概要

- *講 師：京都薬科大学 情報処理教育研究センター 教授・藤原 洋一 先生
- *PC演習：入門編「臨床研究に役立つデータ解析技能
～表計算ソフトExcelの活用からレポート作成まで～」
- *日 時：2015年8月9日（日）13:00～15:00（受付開始12:00～）
- *定 員：50名
- *受講料：3,000円（テキスト代含む）
- *概 要：臨床研究における統計解析を始めたいと思っている方で特にEXCELの基本操作の修得を目指している方。
- *認定単位：G01（共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター）1単位／1日
- *受講資格：3条件あり。PC演習は、当日、本学準備PC(Windows7/Office2010)を使用いただきます。

2015年度 研究支援セミナー2&3 概要

- *日 時：2015年9月13日（日）12:00～17:20（受付開始11:00～）
講義12:00～15:00/PC演習15:20～17:20
- *場 所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室
- *定 員：50名
- *受講料：5,000円（テキスト代含む）
- *認定単位：G01（共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター）
講義：1日/計2単位・PC演習：1日/計1単位
- ◆前半：研究支援セミナー2（講義）
 - ①「薬剤師による臨床研究 ～計画の立て方と研究の進め方の実際～」
滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部/教授・薬剤部長 寺田 智祐 先生
 - ② 演習・SGD「臨床試験計画の立て方の実際」
京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター/教授・矢野 義孝 先生、助教・松村 千佳子 先生
- ◆後半：研究支援セミナー3（PC演習：基礎編）
「臨床研究のためのデータ解析技能 ～統計計算手法の習得と結果の解釈～」
京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター/教授・矢野 義孝 先生
概要：これから臨床研究に取り組むにあたり、パソコン(EXCEL)を用いた実践形式で、各種統計解析（要約統計量の計算、回帰分析、カイ二乗検定など）を体験する。
受講資格：2条件あり。PC演習は、当日、本学準備PC(Windows7/Office2010)を使用いただきます。

- そ の 他：お支払いされました受講料は、欠席またはキャンセルされた場合は、返金できませんのでご了承ください。欠席された方には、後日テキストを送付いたします。
- 申込方法：WEB申込限定（TEL、Eメール、FAXでの申込受付不可）
<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>
 - ・研究支援セミナー1 申込受付期間：2015年3月30日（月）～6月3日（水）
 - ・研究支援セミナー2&3 申込受付期間：2015年4月17日（金）～7月12日（日）
- 問合せ先：京都薬科大学 生涯教育センター
 - ・T E L：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00）
 - ・F A X：075-595-4683（24時間受付）
 - ・E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

※詳細はホームページを参照：申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります。

6年制薬学教育開始にあたって作成された「薬学教育モデル・コアカリキュラム」及び「実務実習モデル・コアカリキュラム」は、作成から10年が経過しました。その間に薬学関連領域の科学の進歩、法律の改訂等があり、社会の変化やニーズに対応する必要があることから、文部科学省「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」においてモデル・コアカリキュラムの改訂が決定されました。各大学では、2015年度入学生から改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新たな教育を開始することとなりました。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（改訂版）では、6年卒業時に必要とされる「薬剤師として求められる基本的な資質（10の資質）」が明確に示され、卒業後は豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献することが求められています。また、基本的な10の資質を前提とした学習成果基盤型教育（outcome-based education）に力点を置き、「基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO）を設定し、GIOを達成するための到達目標（SB0）が明示されました。

薬学実務実習については、薬学教育モデル・コアカリキュラム（改訂版）に準拠した大学の臨床準備教育及び薬学実務実習を適正に実施するための指針を示した「薬学実務実習に関するガイドライン」が作成されました。薬学実務実習は、臨床現場で即戦力として業務できることを目指すものではなく、将来、医療、保健、福祉等における社会的ニーズに貢献する薬剤師として活躍できる基本的な知識・技能・態度、そして問題解決能力の修得を目指します。また、薬物治療に関しては、全ての実習生がどの実習施設でも標準的な疾患について広く学ぶこととなります（代表的な疾患：がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）。

実習の実施にあたっては、大学が主導的な役割を担い、大学－病院実習－薬局実習の学習の連携を図り、一貫性を確保することで、学習効果の高い実習を行っていきます。

本学では、薬学教育モデル・コアカリキュラム（改訂版）に対応するため、第1段階として改訂版モデル・コアカリキュラムのSB0と本学カリキュラムの過不足の調査をし、科目及び時間等の調整を行いました。次に第2段階として「薬剤師として求められる基本的な資質（10の資質）」に向かったカリキュラムの構築を検討し、京都薬科大学を卒業する時に身に付けておくべき能力として「京都薬科大学コンピテンシー」を定めました。これは、10の資質をより具体的に表現したもので、スタンダードとエレメントは実践できる行動を示しています。カリキュラム・ポリシーを軸に、これらのコンピテンシーを達成するための授業科目を編成し、カリキュラムマップを作成しました。このマップは6年間で各科目を段階的に学習し、卒業時にファーマシスト・サイエンティストとして何が出来るようになるかを知ることができます。

■ 参考 ■

【薬剤師として求められる基本的な10の資質】

1. 薬剤師としての心構え
2. 患者・生活者本位の視点
3. コミュニケーション能力
4. チーム医療への参画
5. 基礎的な科学力
6. 薬物療法における実践的能力
7. 地域の保健・医療における実践的能力
8. 研究能力
9. 自己研鑽
10. 教育能力

自治会執行部主催 クリスマス企画

2014年度も自治会では、クリスマスに向けてクリスマス企画を実施しました。

皆様にクリスマスの雰囲気を楽しんでいただこうと思い、愛学館にツリーを設置し、ツリーだけではなく音楽を流し装飾も行いました。

今後とも学生が楽しく豊かな学生生活が送れるような企画ができればと思っております。

企画の実施にあたり至らない点もあったと思いますが、企画を無事に終えられたことに、この場を借りてお礼を申し上げます。

自治会執行部

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号 (No. 177) から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

11月13日 (木)

第2回「とにかく英語を口にしよう」

臨床腫瘍学分野助教 飯居宏美先生による英語でのプレゼンテーション。

国際学会発表に備えてのプレ・プレゼンを行いました。参加した教員及び大学院生から、発表内容について質問、スクリプトの作成、スライドデザイン、コミュニケーションの取り方などについて意見が多数出されました。

11月21日 (金)

第3回「とにかく英語を口にしよう」

薬物治療学分野講師 天ヶ瀬紀久子先生による“A report of my attendance to international meetings in various countries”。

国際学会体験談を中心に英語によるプレゼンテーションを行いました。海外の研究者との出会いなど様々な経験が紹介され、参加者から詳細な内容について質問が出されました。

11月27日 (木)

公開セミナー Prof. Varanuj Chatsudthipong, Ph.D. (マヒドール大学)

Chatsudthipong教授は、薬物トランスポータ、特に腎臓の有機アニオントランスポータ研究に関して非常に高名な先生で、今回は、ステビア含有成分及びその類縁体による多発性嚢胞腎治療の可能性についてご講演をしていただきました。

11月28日 (金)

大学院特別講義 英語プレゼンテーションセミナー

Philip Hawke講師 (静岡県立大学大学院薬学部薬学科 科学英語分野・講師)

(詳細はP20～21に掲載)

11月29日 (土)

平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」合同報告会開催

「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による応答型インテリジェントナノDDSの創成」(研究代表者 小暮教授)

「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクス確立」(研究代表者 安井教授)

(詳細はP14～15に掲載)

12月11日 (木)

第4回「とにかく英語を口にしよう」

博士課程2年次生 松村健吾さんによる“The combination of C7orf24-siRNAs and anti-cancer drugs”。

国際学会発表を控えてプレ・プレゼンテーションを行いました。参加者からのアドバイスを参考に、より良いプレゼンテーションを目指します。

12月15日 (月)

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

5大学連携医療フォーラム及び近畿地区3拠点合同フォーラム

場所：京都大学芝罘会館稲盛ホール

医療フォーラムでは、本学臨床腫瘍学分野教授 吉貴達寛先生が「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」において本学での取り組みを紹介しました。近畿地区3拠点合同フォーラムでは、3拠点を代表する履修生の研究成果発表が行われ、本学教員及び大学院生が参加しました。



12月19日（金）

第5回「とにかく英語を口にしよう」

生薬学分野准教授 中村誠宏先生の「ポストク体験記@ University of North Carolina」

中村先生のUniversity of North Carolinaでの研究、生活などの失敗、苦労、面白体験が英語で紹介されました。大学院生、学部生、留学生、教員が参加し、学部生からも英語で質問があり、終始笑いが起こる和やかな雰囲気のセミナーとなりました。

1月9日（金）～11日（日）

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」5大学連携 海外合同教育シンポジウムへ参加

薬学専攻博士課程（がんプロコース）2年次生 松村健吾さんが参加され、国立台湾大学医学部附属病院を視察し、合同研究発表において、英語による研究内容、研究分野紹介等について発表を行いました。

（詳細はP22に掲載）

1月21日（水）

2014年度後期 課程によらない学位論文学位授与

1名の授与が決定しました。

1月26日（月）

薬科学専攻博士後期課程口述発表

薬科学専攻博士後期課程3名による口述発表を行いました。

予定時間が延長される活発な質疑応答となりました。



1月30日（金）

緊急開催「とにかく英語を口にしよう」

臨床腫瘍学分野助教 飯居宏美先生による国際学会発表を目前にしたプレゼンテーション。

11月の第2回「とにかく英語を口にしよう」で行ったプレゼンが、アドバイス等を踏まえて改善、パワーアップしたプレゼンテーションになりました。

2月7日（土）・8日（日）

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

近畿3大学（京都大学、大阪大学、近畿大学）連携国際会議開催

場所：シェラトン都大阪

臨床腫瘍学分野助教 飯居宏美先生、薬学専攻博士課程2年次生 松村健吾さんが発表を行い、飯居助教が最優秀演題賞を受賞しました。

（詳細はP26に掲載）

2月10日（火）

第6回「とにかく英語を口にしよう」

生薬学分野助教 伊藤謙先生によるConstruction of “Links”。

2月19日（木）～20日（金）

大学院特別講義 英語プレゼンテーションセミナー2

Philip Hawke講師（静岡県立大学大学院薬学部薬学科 科学英語分野・講師）

2月21日（土）

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

第3回地域がん医療を担う薬剤師養成コース会議及びインテンシブコース研修

本学から教員8名、大学院生5名及び学部学生6名が参加しました。

2014年11月28日（金）に、本学A33講義室において、大学院生を対象とした英語プレゼンテーションセミナーを行った。大学院生約20名と、教員約10名が参加した。講師として、静岡県立大学薬学部薬学科（科学英語分野）講師のフィリップ・ホーク（Philip HAWKE）先生にお越しいただき、アクティブラーニングを行っていただいた。まず初めに、参加者が2名1組になり、ホーク先生が作成された「テンプレート原稿」に自分の名前や専門領域などを当てはめて、英語で互いに自己紹介を行った。当初、日本人同士、しかも大学院生と教員の組合せなど、英語での自己紹介に戸惑いもあったが、ペアを変えて繰り返し行ううちに、和気あいあいとした雰囲気の中で英語を楽しむことができた。



その後、ホーク先生に、プレゼンテーションにおけるチェックポイントを解説していただき、プレゼンテーションの基礎を学習した。その確認を兼ねて、3名～4名のスモールグループを形成し、予め撮影しておいた各大学院生の英語プレゼンテーションビデオを視聴し、それに対するコメントを互いに英語で伝える、という作業を行った。このビデオ撮影のために、

かなり練習して臨んだという院生もあり、各大学院生にとってとても貴重な経験であったようである。ホーク先生にチェックポイントを解説



していただいた後でプレゼンテーションビデオを見ることで、各自のプレゼンテーションの改善点が明確になり、各々納得しているようであった。休憩を挟んだ後、大学院生のみでスモールグループを形成し、今度は大学院生がノートパソコンを用いてグループ内の院生に向かっての英語プレゼンテーションに挑戦した。最初は緊張しているようであったが、原稿を見ることもなく、自分の研究に関する英語プレゼンテーションを行っている姿は、とても頼もしく見えた。打ち解けた雰囲気は、とても自然であり、参加した大学院生がごく普通に英語でやり取りしている様子は、まさに理想的なアクティブラーニングであると実感した。ホーク先生のリラックスした雰囲気の演出とわかりやすい英語によって、各大学院生はとても充実したようであり、「なんか英語がうまくなった気がします」というように大学院生が自信を感じることができた点は、大きな収穫である。

今回のセミナーは、本学としては初めての試みであったが、今後もこのような企画を継続して行うことで、グローバルな時代に対応できる大学院生を育成できればと思う。

（研究科長 小暮 健太郎）

KPU_{NEWS}前号で研究科長から、ランチタイムの気軽な雰囲気のなかで英語を使ってみようという試みをご紹介いただいた。この試みは、皆の前で英語で語ってみようというとなり出てるスピーカーが続いて、幸いなことにほぼ隔週に1回の割合で開催できている。

今回報告するのは、研究成果を国際貢献につなげるのに必要な英語プレゼンテーション能力を身に付けるための、英語プレゼンテーション・セミナーと、議論を通して互いの課題を発掘し解決策を見出していく英語SGD演習である。『日本人研究者のための絶対できる英語プレゼンテーション』の著者、静岡県立大学薬学部・薬学研究院のPhilip Hawke先生に講師をお願いした。

セミナーそのものの開催は11月28日の午後のみで



あったが、学生たちの準備は、第1回の「とにかく英語を口にしよう」（10月17日）から始まった。Hawke先生作成の「Describing Your Research」というテンプレートが配布された。これは、日常の研究でなかなか

英語にまでは手が回らない大学院生でも、空欄を自分の課題を示す用語で埋めていくことで5分間のプレゼンのシノプシスを作成することができる形で用意していただいた。テンプレートをもとにスライドを作成し、11月28日のセミナーの2週間前から、分野でご指導いただいている先生方に学会形式で質問をご用意いただき、個別にプレゼンとQ&Aセッションをビデオ撮影した。約1か月の準備期間があったので、構成もしっかりしてスライドも見やすいなかなかの高レベルのプレゼンテーションがなされた。ただ、Q&Aは苦戦する院生が続出した。日頃は日本語でご指導いただいている先生方が、英語で話されるのを初めて目の当たりにしたという驚きがあったとも後で聞いたが、世界で一番自分がよく知っている研究内容も、母国語でなら何の躊躇なく答えられることが、英語で質問されて英語で答えようとした途端に、文字通り「頭が真っ白になった」らしい。ビデオカメラは、この苦闘する様子まで全て記録してしまう。Hawke先生のセミナーの

要の一つは、撮影された自分の姿に対面する「ショック」を出発点にすることにある。ビデオという媒体を通して自分を客観視することで課題を見つけたうえで、11月28日のセミナーに備えたのである。このショックには副効用があった。日本語ならば慣れて寝言でも語れる概念も、英語で表現を探そうとするとことん突き詰めなければことばが見つからない。そのもどかしさのなかで、普段みようとはしていなかった角度から自分の研究を見つめなおすきっかけをつかんだ学生たちもいた。異なる言語は異なる発想を生むことを、体験を通して学んだ瞬間でもあった。

当日の詳細は研究科長の報告をご覧いただきたい。第1回目は5分間の基本形の練習であったが、2015年2月に再度Hawke先生をお招きしてのより高度なプレゼンに挑戦という第2回セミナーについては、次号で報告する。

(一般教育分野 教授 實川 眞理子)

■ ～フィリップ・ホーク先生の英語セミナーに参加して～

薬学専攻博士課程(代謝分析学分野)1年次生 西口 貴之

2014年11月28日に大学院生及び教員向けに英語プレゼンテーションセミナーが行われ、私も参加しました。本セミナーでは静岡県立大学薬学部で薬学英语を教えていらっしゃるフィリップ・ホーク先生にお越しいただきました。

英語セミナーに先だって、ホーク先生が作成されたテンプレートを元に自分の研究のスライド及び発表シナリオを作成し、その発表をビデオで撮影し大学院生間で視聴し、ホーク先生にも事前に見てもらおうという形でスタートしました。プレゼンテーションをビデオ撮影することにより、発表方法や癖を後で振り返ることができ、それを元によりよいプレゼンテーションにできる、ということが素晴らしい試みであると思いました。

当日はホーク先生の身長に驚きつつ、気さくな雰囲気ですeminarが始まりました。多数の教員の先生及び大学院生が参加しており、ホーク先生の配布された英語の資料を元に、他の研究者とのコミュニケーションをとるために必要な最低限度のフレーズを参加者全員がペアを組み会話の練習をしました。さらに、事前に撮影したビデオを多数の教員の先生や大学院生に見てもらい、その場で良いところや改善点を伝えてもらい、それにより自信になったことや「そこを改善すればもっといいプレゼンテーションになる！」と気付いたこともあり、自分自身のプレゼンテーションをさらにブラッシュアップすることが出来たと思いました。さらに、数人の大学院生が集まって、自分の研究を発表しお互いに質疑応答を経験しました。質

疑応答が最難関で、母国語ではない言語を聞いて、理解しそして返答をするということは大変困難でした。リスニング力、質問を整理し返答を考える力、そしてそれを英語にする語彙力・文法力など様々な要素がある、と肌で感じる事が出来ました。

日本の大学に通っていると英語を勉強する機会は授業や研究室での英語論文の抄読会など限られてきます。しかしながら、英語は国際共通語であり、海外の学会で発表する為には必ず必要となります。今回私は京都薬科大学大学院で行われている英語教育に積極的に参加して、これからグローバルに活躍する薬学研究者になるために、海外で学会発表が出来るだけの英語力をまずは身に付けていかなければいけないと強く感じました。



薬学専攻博士課程（臨床腫瘍学分野）2年次生 松村 健吾

2014年1月のがんプロ韓国ソウル大学海外視察に引き続き、2015年1月のがんプロ台湾大学海外視察に参加させて頂きましたので報告致します。

台湾は平均寿命が男性75.96歳、女性82.47歳（2014年台北中央社発表）であり、先進国と同程度の健康水準です。その医療の中心を担っているのが今回視察させて頂いた台湾大学です。日本でいえば東京大学のような大学です。

今回は前回と同様に京大がんプログループの京都大学、滋賀医科大学、三重大学、大阪医科大学、京都薬科大学の5大学が参加し、台湾大学と合同で行いました。内容は1日目が台湾大学側から施設案内と研究発表、2日目は各大学から研究成果を発表し討論、症例検討会が行われました。参加者は医師と薬剤師でしたが、薬剤師は私を含めた2名で他は全て医師でした。

視察させて頂いた施設で私が注目したところは、NTU Center of Genomic Medicineです。ここは遺伝子解析を中心とした研究施設です。特徴的なところは組織が横断的に形成されており効率的に研究ができる点です。企業の研究施設、理化学研究所のようなイメージかと思います。日本の大学のように研究室が独立してあるのではなく、組織全体として研究を進めているところが日本の大学研究室とは大きく異なる点です。例えば、幹細胞を研究している研究室では自分のところで細胞生物学を中心に研究していくわけですが、研究の過程で遺伝子解析等が必要となってきます。台湾大学ではこういった遺伝子解析は一手に引き受けてくれる部署が存在し、その部署と共同で研究を

進めることができます。また、分析系の部署も存在するので生物系の研究室が得意でない分析を一緒に行うことができます。このように組織体として共同研究がしやすくなっているのがNTU Center of Genomic Medicineの特徴でユニークでした。

2日目の研究発表、症例検討は内容の濃いものでした。他大学の先生は医師が多かったこともあり臨床研究が目立ちました。その中で、京都薬科大学からは私の研究室のテーマであるC7orf24に対するsiRNAと抗がん剤の併用療法の可能性について発表しました。発表時間が短かったのでコンセプトだけの発表となってしまいましたが、C7orf24がまだよく知られていないタンパク質であるため諸先生方の興味をひき、多くの質問を頂きました。しかし、英語での質問意図、内容を聞き取ることができないところが多かったため、答えるのに難渋しました。症例検討は台湾大学側から症例提示され治療方針について検討するというものでしたが、「多発再発乳癌で脳メタ症例」、「妊娠中の乳がん患者の薬物治療」という非常に難しい内容で専門知識を必要とするだけでなく語学力がもっと必要だと痛感しました。

今回の海外視察を通して、改めて英語力の重要性を感じました。より多くの方に伝えるために語学が必須であると再認識しました。今回の研修は、多くのがん研究をされている先生方と知り合う機会を得られた有意義なものでした。このような機会を与えて頂きました先生方に感謝申し上げます。

KPU ことば 話 Column

マッサンと薬学

生薬学分野 助教 伊藤 謙

マッサンがブームとなっている。マッサンこと、国産初のウイスキーを製造した竹鶴政孝(1894-1979)の活躍の余波か、ウイスキーが品薄になっていると左党の嘆きが聞こえる。

古来、酒は「百薬の長」といわれ薬学とも関係がある。東洋医学の理論では、体内の気血の巡りを良くするとされ、気分を心地よくさせ、血流促進作用があるとされている。さらには、“屠蘇”のように様々な生薬を酒に漬け込み、薬用に供するという使い方もなされてきた。本学でも附属薬用植物園でつくられたものが毎年、関係者に頒布されている。

それでは、西洋から伝わったウイスキーやワインは日本での扱いはどうなのだろうか？明治時代、大学病院では、ワインに希塩酸・シロップなどを加え、食前

に患者に与えるのが一般的であった。適度に胃腸が刺激され、食欲増進・虚弱体質改善の効能があるとされていたらしい。このように洋酒類は薬用とされることが多かったため、当時は薬種問屋が製造・販売を手掛けた。マッサンが帰国後勤務した寿屋洋酒店（現・サントリーホールディングス株式会社）の創業者・鳥井信治郎(1879-1962)は、漢方処方に配合される生薬類・舶来品の西洋薬そして洋酒も扱っていた小西儀助商店（現・コニシ株式会社、木工用ボンドで著名）で丁稚奉公をしていたことからこの傾向が伺える。

過度な飲酒により健康状態が悪化することはよく知られているが、適度の飲酒により心筋梗塞による死亡を減少させることも報告されている。酒という「天与の液体」。願わくは、「百薬の長」としたいものである。

【参考文献】

- ・ものづくり上方“酒”はなし(2012)
松永 和浩/編著 伊藤 謙/他
- ・食養論 漢方から見た食養論(1973)
聖光園細野診療所/編

■ 悩み方に目を向ける

自立や人間的成長が課題となる大学期。大学生にもなれば、問題を自己解決できるようにならなければと考える方も多いのではないのでしょうか。自分で何とかしたい、答えを見つけ出したいという思いは自己を確立してゆく上で大切な欲求です。一方で問題を解決してほしいという思い、依存的な気持ちもあるのではないのでしょうか。自立を志向する欲求と依存を求める欲求の間で揺れ動く、自立と依存の間で葛藤するのは青年期心性の特徴であり、そこで「悩む」ことは青年期の心理的成長に必要な作業と捉えることができるでしょう。

一方で、悩みが強いストレスとなり、気分が落ち込んだり、体調を崩したり悪影響が生じる場合があります。一般的には悩みはストレス因となるものであり、「悩む」という事態は回避すべきものというイメージが強いかもしれません。しかしながら、葛藤し思い悩む経験は困難に対処する力を育み、困難を乗り越えたという実感は自分自身を支える自信につながります。そう考えてみると、悩むことそのものは決して忌避することではなく、どう悩むのかが問題になってきます。そこで、自分を追い詰めすぎずに悩むことができているか、悩みと上手に付き合えているかという視点から、自分はどんな風に悩んでいるのか点検してみましょう。

悩みに巻き込まれすぎず、距離をとれているでしょうか（悩みに圧倒されていませんか）。

悩むことに意味を見い出せているのでしょうか。

生活全般が悩むことに占領されてしまっていないでしょうか（悩む時機を選択できていますか）。

悩むことを肯定的に捉えられているか、負担になりすぎない形で悩みを抱えることができているかについて振り返り、自分自身の状態を見つめ直すことも時には必要です。その結果、ひとり思い悩むことの限界に気づいたり、今の悩み方に不具合や行きづまりを感じたりした場合には、相談という手段の活用も検討していただきたいと思います。人に相談することは、自分のデリケートな部分がある意味さらけ出すようなものであり、抵抗を感じる側面もあるかもしれません。また、相談しても相手が自分の悩みを肩代わりしてくれるわけでもないのに、相談することに意味があるのかと思うかもしれません。しかしながら、自分の心の内だけで悩み考えているよりも、信頼できる人に話した方が、考えがまとまりやすかったり、気づきが得られたりすることが多いようです。また、ひとり抱え込む中で深めがちな孤立感を軽減することにも繋がるはずです。相談ですが、信頼できる人に相談することが大切です。人によっては、それは家族だったり友人であったりすると思います。もし、相談してみようと思うけれど身近に相談できる人が思い浮かばない、身近な人には相談しにくいといった場合には、相談先のひとつとして学生相談室を思い出していただきたいと思います。

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075-595-4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください

私の薦める、私の一冊



うわの よしお
数学分野 教授 上野 嘉夫

マーク・ピーターセン 著『日本人の英語』
岩波新書(1988)

出版年からおわりのとおりのロングセラーです。この本は、How to本ではありません。しかし、本書を読むうちに、「英文を『英語として』読む・書く」ための「ころ」が、読者個々の読み書き体験に応じて養われる気がします。実利的英語力向上への即効性はありませんが、「読んで面白い本」というのが一番良い点です。著者は「不自然な日本語」と謙遜しますが、その「生き生きした日本語」に惹き込まれたのは、私だけではないでしょう。英語教育を重視する本学の学生諸君に、お薦めできる本だと思います。

本書からは、「(まともな) 英語ってこう書かれるのですよ。だから、こう読むのですよ」という思いが、「へーっ」とか「本当?」と呟いたり、思わず笑ったりせずにはいられない豊富な例から溢れ伝わってきます。例えば、“an ex-wife of my brother”から弟(または兄)の複数離婚歴を知るのが、英語の意識だという主張に「へーっ、そうなんだ」と思う人は少なくないでしょう。豊富で面白い事例を通じて、英語表現は文全体の流れと切り離せないこと

が、繰り返し語られます。

私がこの本から掴めた「ころ」は、「冠詞や単複は後付け不可能」で、「英語をUターン禁止で左から右に読む・書く」と総括できるでしょうか。和文論文が原則有り得ない数学分野の研究者として自立すべき時期に本書に出会って、この「ころ」を掴めたことは幸運でした。実際に、英語が左から右に自然に書けるようになっていったからです。それは、英文論文執筆における、ボスの厳しい赤ペン添削からの自立も意味しました。

本書は大反響を呼んだのでしょうか。その後、「続」と「実践」が岩波書店から出版され、それらの「3冊セット」も出ています。また、同著者による『日本人が誤解する英語』光文社(2010)も、面白い本です。そうはいっても、ここで紹介したオリジナルが一番かなと、私は思いますが・・・。

※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

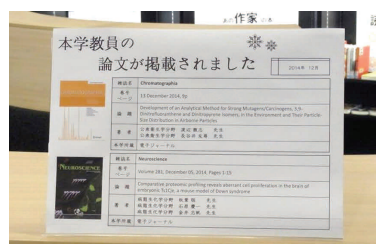


Library News

■ 学術雑誌に載った本学教員の論文を紹介しています

図書館では、教員の皆様が執筆した論文の掲載情報をお知らせしています。

入館ゲートを入ってすぐの「ブラウジングコーナー」に掲示しているほか、図書館HP「お知らせ」からもご覧いただけます。



図書館

開館日程

2015年 4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2015年 5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2015年 6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

休館=館内整備

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。私達は毎年、年に1回行われる定期演奏会に向けて日々活動を行っています。

去年は、例年よりも多い15人の1年次生が入部してくれました。1年次生のおかげでこれまでよりさらにパワーアップした合奏になったと思います。

長野で行った夏合宿では1～3年次生が参加し、朝から晩までほぼ1日中、一生懸命練習しました。花火やバーベキュー、打ち上げもあり、非常に思い出に残る1週間となりました。この合宿を通して1人1人が課題点を見つけ、演奏面ではもちろん人間的にも成長できたのではないかと思います。定期演奏会がより良いものとなるように、直前は回数を増やして練習に励みました。先生方のご指導、顧問の橋詰先生やOB、OG、エキストラの方々の支えもあり、無事に定期演奏会を成功することができました。練習は大変で辛いこともありましたが、日々練習を積み重ねてきたことが実を結んだと実感し、達成感と充実感でいっぱいでした。

今年も11月に行われる定期演奏会に向けて練習を開始しました。新歓にはじまり、今年も長野で夏合宿を行う予定です。新体制となり演奏面ではまだまだですが、去年を越える素晴らしい定期演奏会となるよう、部員一同、一生懸命練習を積み重ねていきたいと思っておりますので、管弦楽部の活動を是非注目してください！

漢方医学研究部

こんにちは、漢方医学研究部です。謎めいたクラブだと思われがちですが、実はかなりアクティブに活動しており、毎年入部して頂ける人数も多いです。

去年は8月に布引ハーブ園を見学し、9月に薬膳料理会を行いました。11月に行われた京葉祭では、これらの発表とともにハーブティーの試飲会を実施致しました。多くのご来場ありがとうございました。

通常の活動日（月水金）には教室をお借りして部員発表を行っており、今年度も4月から活動を開始致します。見学会、薬膳料理会、京葉祭の担当チームもすでに組まれております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ユーベルコール部

ユーベルコール部の活動について紹介します。春は卒業式、入学式で歌います。また、春と夏には合宿を行い、春には京都合唱祭、秋には定期演奏会に参加します。歌う曲は合唱曲だけでなく、J-POPや外国の曲も取り入れています。

- ・スケジュール
- 3月上旬 合宿
- 5月下旬 京都合唱祭
- (または6月上旬)
- 8月上旬 合宿
- 11月中旬 定期演奏会

卓球部

【戦績】

- ・秋の四葉卓球大会
 - 女子団体・・・・・・3位
 - 女子シングルス・・・・準優勝（東馬）
 - 女子ダブルス・・・・3位（東馬・中野）
- ・第65回全日本医歯薬卓球大会
 - 女子団体・・・・・・優勝
 - 女子シングルス・・・・準優勝（岸本）
 - 女子ダブルス・・・・3位（岸本・東馬）

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。私たちマンドリン部は年に一度の定期演奏会に向けて練習を重ねています。

大学からマンドリンを始めた人ばかりで個性や趣味が十人十色ですが、メリハリを持って勉強や部活、遊びをしています。ほかにも4月末に行われる全日本学生マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会に参加し他大学とも交流します。また、部員も増え、駅前でアンサンブルを行ったり活動の場を広げ和気あいあいと頑張っています。

剣道部

剣道部は部員が15人で、3分の2が大学から剣道を始めた初心者で占められています。活動日は月曜日、水曜日、金曜日の17時から19時までです。

医歯薬学生剣道大会や関西薬学生剣道大会、全国薬学生剣道大会で団体戦の部で3位、個人の部で3位など様々な大会で入賞しています。

4月には関西学生剣道大会、6月には医歯薬学生剣道大会があるので、日々試合に向けて稽古しています。

受賞

Report

■ 平成26年度日本薬学会近畿支部奨励賞を受賞

衛生化学分野の西田健太郎助教が「平成26年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞しました。本受賞は抗がん剤oxaliplatinによる味覚障害のメカニズムを解析し、分子レベルでの変化について明らかにした点が評価されたものです。

受賞者：衛生化学分野 助教 西田 健太郎

演 題：Oxaliplatin誘発性味覚障害発症メカニズムの解析
一味覚感受性、味受容体の発現及び味細胞数の統合的解析—

演 者：西田 健太郎、山中 優里、宮田 麻依
番匠 咲帆、宮本 花凜、大石 晃弘、長澤 一樹

■ 学生実習支援センターが「京都是ぐくみ憲章」実践推進者として表彰されました

学生実習支援センターは、小学生が理科に対する興味を持つきっかけづくりになるよう、山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会と協働し、地域の小学生（毎回約120名）を対象とした「理科実験講座」を平成23年から毎年開催しています。この活動が、京都市が普及推進に取り組んでいる、子供を健やかで心豊かに育む社会を築くための行動規範「京都是ぐくみ憲章」の理念にふさわしいと評価され、平成26年度実践推進者として表彰されました。

2月7日にシルクホールにて行われた表彰式には、センター長・北出教授をはじめセンター所属教員が出席し、表彰を受けました。



表彰者：京都薬科大学 学生実習支援センター

表彰内容：京都是ぐくみ憲章

平成26年度実践推進者表彰

表彰理由：実践を推進する気運の醸成に貢献する活動団体として

【京都市広報・表彰式の開催について】

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/age/0000175631.html>



表彰式の様子

■ 第3回がんプロ国際シンポジウムにおいて最優秀演題賞を受賞

2015年2月7日（土）～8日（日）に大阪で開催された「第3回がんプロ国際シンポジウム(The 3rd International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals)」において臨床腫瘍学分野の飯居宏美助教が最優秀演題賞を受賞しました。

本受賞は抗がん剤の新規標的分子C7orf24に対する阻害剤開発に関する内容が評価されたものです。

受賞者：臨床腫瘍学分野 助教 飯居 宏美

演題：Development of a new anti-cancer drug that targets the novel cancer-related protein C7orf24

演者：飯居 宏美

谷口 恵香

吉矢 拓

西内 祐二

影山 進

吉貴 達寛



News お知らせ

■ 2014年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式

2014年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月21日（土・祝）午前10時から国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）で執り行いました。本年は、本学の新体育館兼中央講堂（仮称）の建築工事のため学外での開催となりました。

大学院 博士後期課程3名、課程によらない博士1名、博士前期課程4名に学位記（博士又は修士）、

学部 薬学科366名に卒業証書・学位記（学士）が乾学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、同国立京都国際会館で、京都薬科大学・京薬会・教育後援会共催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

人 事

採 用

分析薬科学系代謝分析学分野
准教授 木村 寛之

薬学教育系教育研究総合センター
薬学教育研究センター 助手 高木 愛未
(特命教員)

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 大石 美恵

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター 特命教授 田中 久子
(契約教員)

放射性同位元素研究センター 講師 村田 保
(契約職員)

事務局施設課 契約職員 富永 重夫
(以上 2015. 4. 1付)

(契約事務職員)

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター
契約事務職員(事務員) 山中 則子
(2015. 3. 1付)

事務局進路支援課 契約事務職員(事務員) 永島 真由実
(2015. 1. 1付)

出向受入

事務局施設課 施設課長 中谷 庄吾
(2015. 4. 1付)

昇 任

基礎科学系一般教育分野 教授 野崎 亜紀子

薬学教育系教育研究総合センター
情報処理教育研究センター 教授 藤原 洋一

生命薬科学系病態生理学分野 准教授 高田 和幸

基礎科学系一般教育分野 准教授 坂本 尚志

生命薬科学系衛生化学分野 講師 西田 健太郎

薬学教育系教育研究総合センター
薬学教育研究センター 講師 開 章宏

生命薬科学系細胞生物学分野 助教 渡部 匡史

薬学教育系教育研究総合センター
薬学教育研究センター 助教 吉村 典久
(以上 2015. 4. 1付)

事務局教務課 主事 谷垣 朱美
(2015. 1. 1付)

配置換

薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 助教 高尾 郁子
(前 学長付)
(2015. 4. 1付)

退 職

生命薬科学系病態生理学分野 准教授 北村 佳久

放射性同位元素研究センター 准教授 山岸 伸行

薬学教育系教育研究総合センター
学生実習支援センター 講師 若槻 徹

共同利用機器センター 講師 小川 俊次郎

病態薬科学系病態生化学分野 助手 金井 志帆

事務局施設課 施設課長 富永 重夫

事務局施設課 主幹 宮崎 渡
(教育研究支援教員)

薬学教育系教育研究総合センター
薬学教育研究センター 助手 高木 愛未
(以上 2015. 3. 31付)

News 京 薬 会 だ よ り

＜2015年度 京薬会代議員総会の開催予定＞

2015年度京薬会代議員総会は5月23日(土)に開催します。当日は午前中に支部長会、そして午後に代議員総会を予定しています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席ください。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度のホームカミングデーは第6回となりますが、例年通り京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせ、11月1日(日)に開催します。

参加者は回を追うごとに増加し、盛大になっていますが、本年は更に充実したホームカミングデーとしたいと考え、企画を練っていますので、一度新しく生まれ変わった母校を訪問し、恩師や卒業生や在学生と交流してみませんか。

この会にあわせてミニ同窓会を開催、同期の仲間と誘い合わせて参加といった光景も増えてきており、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。参加は無料ですので、多くの卒業生の皆さんの里帰りをお待ちしています。

＜駅伝大会とぜんざい会＞

京薬会協賛の「京都薬科大学駅伝大会」(17チーム・121名参加)が11月29日(土)に開催されました。

予報では雨、当日の朝も土砂降りの雨で開催は無理と思われましたが、昼から雨は上がるとの陸上部の皆さんの熱意で決行することとなりました。その熱意に空も負けたのか、だんだん小止みに、スタート時刻の1時前にはすっかり雨は上がりました。

選手たちは乾学長の号砲とともにキャンパス中庭を一斉にスタートし、山科疎水へと駆け上がっていきました。約1時間後、応援の学生が大勢待つなか、選手たちが次々とゴールした頃には陽も差してきました。

全員ゴールした後には、選手や応援の学生に恒例の京薬会提供のぜんざいが提供され、皆さんに喜んでいただけました。

京薬会では今年も陸上競技部とともにこの伝統ある京都薬科大学駅伝大会を盛り上げていきたいと考えています。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2014年12月～2015年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

渡辺	温(昭43)	小口 江美子(昭49)	京薬大60年卒
		辻尾 邦恵(昭55)	同窓会有志一同

＜京薬四〇会卒業50周年記念募金（昭和40年卒業生）（五十音順）＞

稲坂 由美	小森 忠昭	畑 健一郎	柳澤 進
大石 義孝	近藤 勲	服部 清二郎	柳田 寿彦
岡本 喜代子	斎藤 美智子	服部 文子	矢野 治彌
奥野 邦子	佐伯 行一	平瀬 正三	山下 勲男
恩地 正	村内 英士	広瀬 紘一	山本 宣子
掛見 和郎	高島 一	福井 一夫	山本 雅英
加納 亜子	武田 信子	藤田 明美	山本 翠
神山 武博	土江 恭子	古谷 訓子	山本 良子
栢口 弘	土岐 隆信	松田 勲	吉井 功
神田橋 紘子	栃本 文男	南 亜夫	渡辺 靖子
熊田 豊子	富永 憲征	南 敬子	
河野 浩子	中田 千恵子	向林 素鶴子	
小西 健一	長谷川 豊子	森本 美恵子	

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

北出 達也(教授) 佐々江 敏幸(課長) 佐原 和美(係長) 武田 禮二(理事長)

(2015年2月28日現在)

